

## 新聞記事を活用した地域協創教育

指定校1年次 長野県飯田 OIDE 長姫高等学校 西村 武久

### (1) 本年度のNIE活動の概要

近年、コミュニケーション力の変化においては、活字離れが大きな影響を及ぼしていると実感している。文章を読み解くことは、知識を深め、語彙力の向上に繋がるだけでなく、“想像する力”も磨くことができると確信している。しかし、SNSの普及によって画像化・映像化されたものに触れる機会が急増し、新聞や本を読む機会が減少しているのが現状である。教育現場においても、このような諸問題から教科書を読むことに対する苦手意識を持つ生徒が多く、ただ見たものだけを写す暗記型学習が定着してしまっている。さらに、文章を読んでその背景や情景を想像することから避ける環境は、私生活の人格形成にも影響を及ぼしているように思う。これらの課題をふまえて、研究指定校となった本年度は“地域協創教育”の中にNIE学習を取り入れることにした。

### (2) 本校の状況

本校は県内初の総合技術高校として誕生し、今年で11年目を迎える。全日制6学科、1学年7クラスで、定時制生徒を合わせると900人規模の、県内でも大規模校の一つである。地域と連携した活動を活発に行っており、工業・商業を横断して産業に関わる様々な専門分野を学ぶ“地域協創教育”を実施していることが特徴である。目指す目標は

- ・「自己実現」新しいことを幅広く学ぶことで、自分の“やりたいこと”を発見する。
- ・「探究型学力」社会に存在する答えのない“問い”に立ち向かう力を身につける。
- ・「協創する力」多様な人々と共に、“革新的なアイデア”や“新たな付加価値”を生み出す。

これらを実現するために

- ・1年次 地域を知り“気づき”の力を養う「協創教育基礎」(普通教科内で実施)
- ・2年次 地域の“今”を知り探究の基礎力を養う「地域ビジネスと環境」(2単位必修)
- ・3年次 地域課題を探究し“協創する力”を養う「地域活性プロジェクト」(2単位選択)

上記科目を、3年間系統付けて学習し“地域に貢献できる幅広い力”を養うようにしている。

### (3) NIE活動の狙い(育てたい力)

NIE学習を「地域ビジネスと環境」科目の中で活用することにした。9月～12月の間、学校に配布される各社新聞をそれぞれのクラスに毎日配布し、この新聞と信毎データベースを活用して、クラス(班)ごとテーマを決めて授業を展開した。

#### ① A組(機械工学科)担当:星山 蒼

- ・テーマを“新聞を設計してみよう”に決め、新聞を一から設計する授業に挑戦。



写真1 地域協創教育

- ・自分たちと同じ“若者”に焦点を当て、どのようにしたら新聞に興味を持ってもらえるのかを考えることで、“新聞”と“想像する力の育成”をリンクさせる。

② B組（電子機械工学科）担当：西村 武久

- ・信毎データベースから本校掲載の新聞記事を検索し、年度ごとのポスターを製作していく過程で、“様々な製作・構成技術”を学ぶ。

③ C組（電気電子工学科）担当：柳瀬 伸彦

- ・地域や社会の課題を発見し、解決に向けて考える“解決力”を育む。
- ・情報の信頼性が高い新聞を通して、多分野の情報を活用。これからの社会を担う職業人として“合理的かつ創造的に解決する力”を育てながら、自分の意見を持たせる。
- ・正しい情報を得ながら、班ごとの発表を行うことで、コミュニケーションを図るとともに、“主体的かつ協働的に取り組む態度”を養う。

④ D組（社会基盤工学科）担当：山岸 泰河

- ・“情報リテラシーの向上”、“読解力の向上”、“社会的な知識”を深く学ぶ、“ディスカッションや意見形成の促進”、“多角的な学習体験”を狙いとする。
- ・新聞を通じて幅広い教育的な経験を与えて、情報社会で必要とされる“スキルや知識”を身につけさせる。

⑤ E組（建築学科）担当：木下 良示

- ・スマホやPCに頼らず活字に触れ、“読む習慣”を身につけ、“文字を丁寧に書ける”ようにする。
- ・“正しい情報を正しく理解する力”を身につけ、しっかりとした自分の意見を持たせる。
- ・通常の授業では得られない“考え方や発想”、“アイデア”、“問題解決力”を身につけさせる。
- ・WEB データ検索から時事の推移を検討させるとともに、新聞を素材として新たな作品を製作する過程で、“デザイン”など様々な技術を学習する。

⑥ F・G組（商業科）担当：清水 信夫

- ・日頃関心の薄い分野であろう政治、経済、社会、文化などの情報に触れることにより、“視野を広め、社会性の向上”を目指す。
- ・新聞を読むことによる“文章（活字）能力の向上”を目指す。
- ・グループでひとつのテーマについて話し合いを進めることにより、“コミュニケーション能力と問題解決力の向上”も目指す。
- ・新聞に触れることにより、“ネットニュースではない情報源”を身近に感じてもらう。

(4) 新聞を活用した授業

① A組（機械工学科）

- ・必修科目“機械設計”では機械的でマニアックな設計に加えて、設計の基礎となる部分も学んでいるので、これを活用し、新聞をデザインすることにした。
- ・“新聞離れが予想される若者に興味を持って読んでもらえるような設計をする”と設定し、若者に視線を向けてデザインするようにした。
- ・新聞を知ってもらう必要があったため、“書いてある内容”、“新聞の歴史”、“コスト”、“形状”の4つ観点についてグループ共有し、調べ学習を行った。

- ・調査した内容から設計を始め、中央にデザインした新聞の絵を描き、構想マップ状に枝分かれしながら工夫した点を記載していくように促した。
- ・授業は事前学習、実設計の両方で自作のワークシートを使用して実施した。

## ② C組（電気電子工学科）

- ・新聞を読み、気になるニュースに着目させた。
- ・グループに分かれ、分からないこと、調べる必要のある事項を決め、分担して調査させた。（新聞を基本とし、タブレット等使用）
- ・調べた内容の精査、まとめ方の検討をさせた。
- ・まとめは全員が参加し、自分たちの意見を必ず入れるようにして発表した。



写真2 授業の様子

## ③ D組（社会基盤工学科）

- ・新聞を読み、気になるニュースに着目させた。
- ・調べた内容の精査、まとめ方を検討し、発表した。（Google スライドにて作成）

## ④ E組（建築学科）

- ・一人ひとりが新聞を読み、気になるニュースに着目させた。
- ・グループに分かれ、分からないこと、調べる必要のある事項を決め、分担した。
- ・調べた内容を精査させ、クラス内で自分たちの意見を入れて発表を行った。

## ⑤ F・G組（商業科）

- ・3～4名の班（グループ）に分かれて各自新聞を読み、その中で気になる記事をそれぞれが選んだあと、話し合いを通じて、班で調べてみたい記事をひとつに絞らせた。
- ・選んだ記事は次の通り。AIやEVなど「技術」、「処理水」関連、パレスチナなど「世界情勢」、「世界のスポーツ」、地震など「災害」関連、働き方など「労働問題」、EVなど「最新技術」、「子育て高齢者」関連。
- ・選んだ記事については、その記事に関わる内容や課題について、一人が一つテーマを設定し、さらに深く調べさせた。
- ・調査にあたっては、新聞だけでなく、タブレットによりインターネットも利用した。商業科であるため、調査にあたっては経済的な面や地域性も考慮した調査を行うよう指導した。
- ・調査した内容を、班ごとスライドにまとめさせて、クラス内で発表会を行った。

## （5）公開授業の活動内容

2 学年 電子機械工学科 教科「総合技術」 単元「地域ビジネスと環境」2 単位  
「統合創立 10 周年の軌跡」ポスター製作・展示

- ・ねらいと授業の展開

10 月、統合創立 10 周年記念式典を飯田市文化会館ホールで開催した。NIE 授業として、記念式典に向けて信毎データベース検索を活用し、ポスター製作に取り組んだ。ポスターは、統合前の 1 年間と今年を含めた合計 12 枚をグループごとに割り当て、それぞれの年度での掲載記事から、当時何があったのかを B0 ノビ用紙にまとめさせる作業を通して、様々な技術を学習させるようにした。

5 月～6 月の 2 ケ月間を使用して初版を製作した。クラスで 1 名の編集長を選出。この生

徒の統括の下、3人ずつ12グループに分かれ、各自が所持しているタブレットを使用して、信毎データベース検索で過去の掲載記事を集めさせた。その収集した膨大なデータから、新聞紙面の必要な部分をトリミング。編集長がクラウド上にあらかじめ作成しておいた台紙ファイルにデータを配置していく作業をした。完成したファイルは長尺プリンタで印刷して第1版が完成。文化祭で展示し、併せて来場者にはアンケートも実施した。アンケートには、「過去の先輩の頑張りがよくわかる」、「統合からの歴史がよくわかり面白い」という意見があった一方、「記事の配置を時系列に揃えたことにより、同じ部類の記事が、あちこちにとんでいて読みにくい」、「1年間の記事が多すぎて文字が小さくて読みにくい」、「1月から12月までの年ごとのまとめ方より、4月～3月までの年度ごとにまとめた方がよい」、「データ処理した文字の解像度が悪い」など多くの指摘を受けた。



写真3 ポスター製作の様子

続いて8月～9月の授業ではこれらの反省を改善するために、地元企業の編集デザイナーに指導を依頼。3回にわたって一斉授業を実施し、プロの視点から様々なアドバイスを受けた。

主なアドバイスとしては、「人の目に留まるようにするには、班ごと自由な視点で作成する」、「デジタル記事をデータとして加工して配置するより、記事ごと紙に印刷して台紙に直接貼り付けた方が、来場者は足を止めてくれる」、「1年間に掲載された記事で最も伝えたいことを大きく配置し、小さな記事はバッサリ削除することも大切」、「より伝えたい箇所にマーキングしたり、吹き出しやコメントを入れたりして、一目で記事の内容がわかるようにする」、「年間のまとめのコメントは2行ほどで簡潔に表記した方が読んでもらえる」など、広告として重要な技術を数多く教授して頂いた。この助言を参考にして、改めて各班で方向性を決め、改訂版ポスターの製作に取りかかった。



写真4 改良したポスター

完成したポスターは年度ごとに特徴を出すことに成功し、飽きのこない、見ごたえのあるポスターに仕上がった。

式典当日、飯田文化会館ロビーにて、受付場所を中心にポスター12枚を“コの字”型に配置して展示。受付を済ませた多くの来場者はホールに入場する前、足を止めてポスターに見入っており、好評だった。



写真5 ロビーでの展示

式典では、全日制生徒・同窓生を含めて1,300人が集まり、ステージ発表では、生徒発表を主としたことで、オリジナリティが十分発揮され、大盛況で幕を閉じた。

## (6) 1年間取り組んだ成果と課題

### ① 統合創立10周年記念式典 ポスター製作・展示 B組(電子機械工学科)

生徒の感想は、「新聞記事を読み、まとめる中で、関心を持って見て頂ける、魅力あるポスター製作の技術を学ぶことができた」、「自分の高校でも初めて知る取り組みもあり面白かった」、「新聞でたくさん取り上げられてうれしい気持ちになった。自分も歴史に刻める

ように、これから頑張っていかなければならないと強く思った」、「来場者の反応は思った以上にあり、やりがいを感じた」など、NIE 授業を通して、内容の濃い授業展開となり、生徒の目に見える成果をあげることができた。また、総合技術高校の工業科としても、通常教えることができない専門技術を学ばせることができた。

## ② 新聞を活用した授業（A、C・D・E・F・G 組）

### A 組（機械工学科）

- ・高校生の柔軟な発想を引き出すことができた。
- ・事前の調べ学習を行ったことで、新聞に対してある程度の知識を蓄えた上で、取り組めたことも良かった。
- ・調べ学習の時点で、コストや形状に限らず、知る権利や読む権利、生産方法といった幅広いワードが確認されたことから、様々な情報を新聞から見つけ、想像しながら調査できたといえる。
- ・デザインに関しては、班ごとに個性あふれるアイデアが見られた。
- ・ジェンダーに関することや SDGs に注目したデザインもあれば、読みたい記事を QR コードから読み取るというような、斬新なアイデアもあった。しかし、どの班も形状に関しての工夫は少なかったように感じた。コストの面を考えると、現在のサイズが妥当であると判断したのか、生徒たちの考えが気になるところでもあった。ただし、どの班も目線を第三者に向け、しっかりとテーマを想像しながら活動したことが、ワークシートからも伝わってきた。

### C 組（電気電子工学科）

- ・気になる記事の選定は自由としたが、科の特色もあり、AI・ICT・原子炉など「電気」に関連したテーマを選択した班が目立った。また、地震・戦争・地球温暖化・少子化など世界情勢などにも着目する班があるなど、それぞれの班がまとめたことを自由に発表することができた。
- ・読売新聞から課題を見つけたが、問題を継続的に探究できない点は課題が残った。信毎データベースをもっと活用していきたいと感じた。
- ・実社会においても正しい情報を正しく捉え、意思表示ができる人になることで、自分の抱いた考えに基づき、自ら行動し、より良い社会貢献に繋げてもらいたい。

### D 組（社会基盤工学科）

- ・NIE 授業を通して、活字を読む習慣が身につく、他の教科でのリーディングスキルの向上につなげることができた。
- ・NIE をきっかけとして、地元から海外まで、社会情勢や社会問題について知ることができて、3年生で避けては通れない進路活動のための準備ができた。
- ・社会基盤工学科のクラスであるため、社会基盤や土木の分野に沿ったテーマを選択することが望ましかったが、新聞の購読期間が指定されていることもあり、テーマ選択に苦労した。
- ・新聞の管理を考えて、担当教員が研究室に保管したが、授業外で活用するのに手間がかかったため、良い管理方法を検討しなければならない。

### E 組（建築学科）

- ・新聞の読み方がわからない生徒が多かったが、新聞を読めるようになった。
- ・普段気に留めないニュースに問題意識を持つことができた。
- ・問題に対して正しく捉え判断し、自分の意見を持つこと。それを皆の前で発表することができた。
- ・新聞により問題を継続的に探究できなかつたため、タブレットに頼ってしまう傾向にあった。
- ・実社会においても正しい情報を正しく捉え、はっきり意思表示ができる人になることが、社会を良くすることだと期待したい。

### F・G組（商業科）

- ・新聞を読むことにより、最新の科学技術・環境問題・世界情勢などについて、より深く学ぶことができた。
- ・関心のある内容を班で共有し調査を進めたため、異なる視点から予想以上に活発な活動ができた。
- ・F組では日本経済新聞からクラス担任がその日のニュースをひとつ選び、クラス内で共有させたこともあり、日々ニュースに触れる機会を増やすことができた。
- ・G組では産経新聞の令和5年9月25日の「いつも一緒だったのに」という御嶽山の噴火事故の記事を選んだ班では、新聞記事の見出しの大切さを知った。
- ・調査にあたっては、新聞の部数の問題からどうしてもネットに頼ることになり、もう少し新聞中心の調べ方ができればよかった。

### ③ 修学旅行 ～ しまなみ海道 瀬戸内海縦断 ～

11月に修学旅行（B組）で愛媛・広島県の“しまなみ海道70km”を自転車で走破した。県NIE推進協議会事務局長の佐藤秋彦氏が、たまたま自転車愛好家であったため、NIE出前授業を依頼。“しまなみ海道”のノウハウを楽しく愉快地教授して頂き、生徒の気分を頂点に高めてくれた。その後、生徒は使い慣れた信毎データベース検索で“しまなみ海道サイクリング”の記事を検索。ワクワクする新聞記事を読みながら、グループごと1日の走行計画を立てた。修学旅行では、佐藤氏が密着取材を兼ねて生徒と一緒に走って頂けることになった。

修学旅行当日、今治市のサンライズ糸山で集合写真を撮った後、70kmのサイクリングがスタートした。サイクリングは順風満帆とはいかず、トラブルが多発したが、その分、数多くのドラマが誕生し、生徒と佐藤氏と私とは青春の1ページが刻まれた。後日、信濃毎日新聞の紙上やデジタルにて生徒の体験記を連載して頂いたことで、地域でも話題となり、多くの反響が寄せられた。今回、NIEの指定校として得られた機会のおかげで、生徒は多方面における幅広いことを学び、普通の高校生活では得られない数多くの貴重な体験をすることができた。

NIEの取り組みがここまで展開するとは思っておらず、今年1年間、学校内外で、科目を超えた素晴らしい教育活動になったことにとっても感謝している。



写真6 サンライズ糸山で集合写真



写真7 多々羅しまなみ公園にて生徒と撮影